

PRESS RELEASE

2020年2月14日

丸紅アークログとBIMオブジェクト拡充に関する業務提携契約を締結 BIMを構成する建築部品や照明家具などの管理、利活用を省力化 関係者間の意思決定を迅速化

株式会社長谷工コーポレーション（本社：東京都港区、社長：辻 範明、以下 長谷工）は、BIM オブジェクト（※1）総合検索プラットフォーム「Arch-LOG」を運営する丸紅アークログ株式会社（本社：東京都港区、社長：三川 亮）と、BIM オブジェクト拡充とプラットフォーム活用のための業務提携契約を締結しました。

長谷工は、“マンション特化”と“設計・施工比率の高さ（※2）”という特徴を活かすべく「長谷工版 BIM」の水平展開と関連技術の開発を進めておりますが、BIM が設計者や施工者だけでなく、建材メーカーや什器メーカーなどでも利活用され、増大する BIM オブジェクトを集約、管理するプラットフォームの構築が課題となっていました。

「Arch-LOG」には、一般的な建築部材、建材メーカーが作成しているオブジェクトや各素材のカタログデータだけでなく、衛生陶器や厨房機器、医療機器などのデータも同一のプラットフォームに格納されています。「Arch-LOG」を活用することで、多種多様なオブジェクトの検索や BIM に取り込む手間、素材選択からサンプル依頼、色彩などを確認するためのマテリアルボードの作成に至るまで省力化を図ることができます。また、高精細なレンダリング機能（※3）を活用することで、関係者間の意思決定の迅速化を図ることができます。

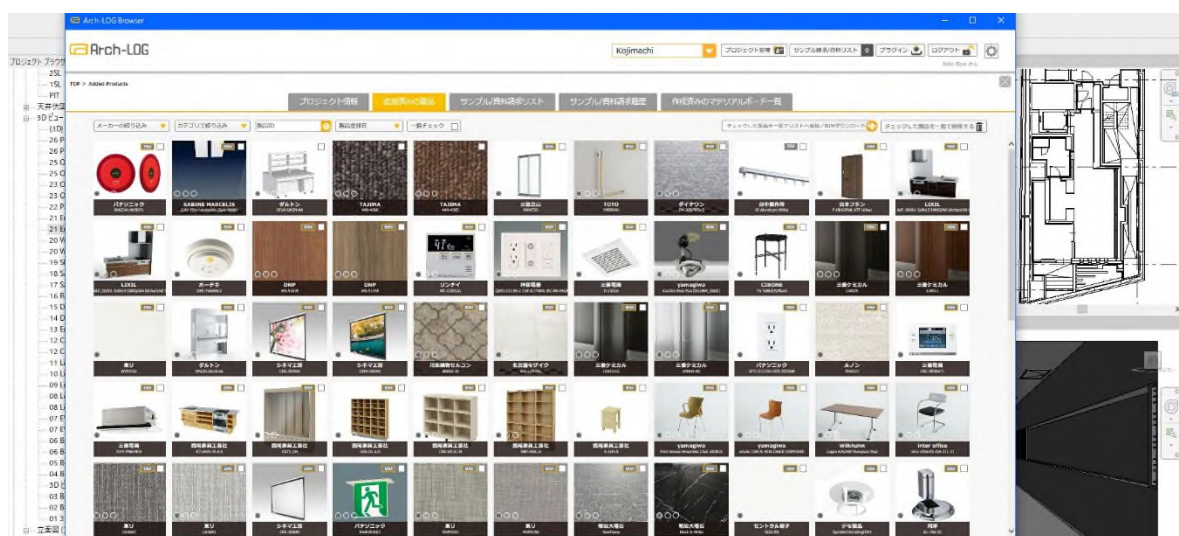
当社は、こうしたメリットを最大限活用していくため、設計部門全体で「Arch-LOG」の利用を促進し、BIM オブジェクトの拡充を図るとともに、“デジタルトランスフォーメーション”（※4）への取組みの一環として BIM 活用を推進してまいります。

（※1）柱、壁、床などの建築部品から照明機器や家具など、BIM モデルを構成する部品

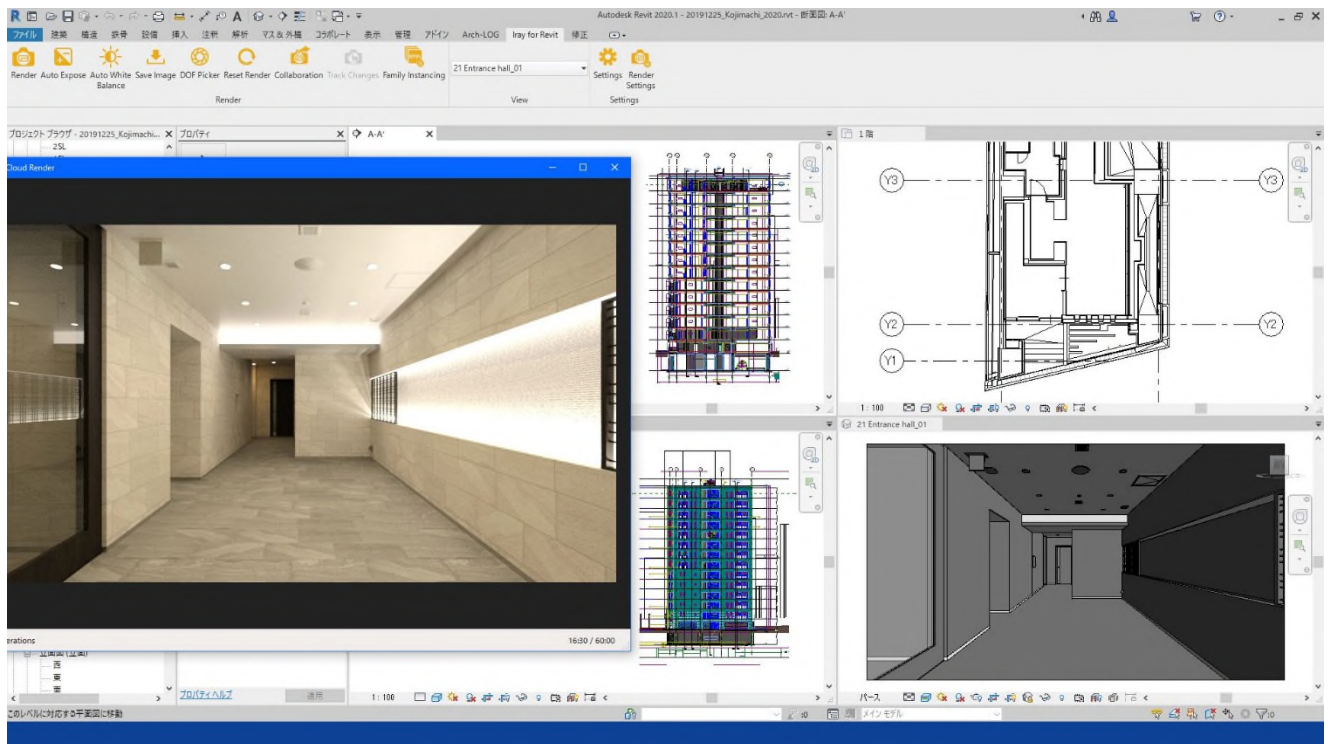
（※2）2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日）の設計施工比率は91.3%

（※3）3Dモデルの情報（形状、色、質感、光源、影など）をリアルに表現する機能

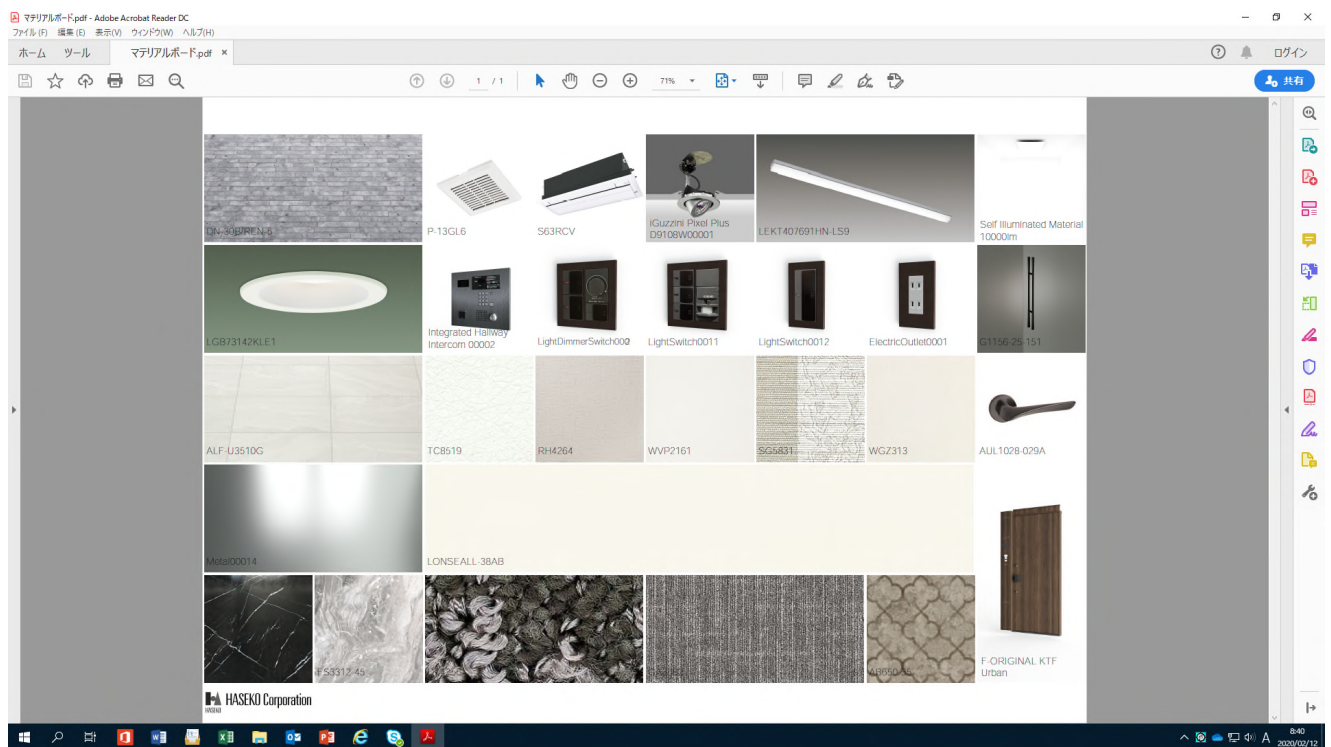
（※4）デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものに変革すること



[Arch-Log オブジェクト検索画面（提供：丸紅アークログ）]



[BIM と連動したレンダリングイメージ（提供：丸紅アーキログ）]



[マテリアルボード作成イメージ（提供：丸紅アーキログ）]